

1 本園の教育目標

教育理念 「キリスト教保育に基づき、明るく素直な生活態度、逞しい身体、豊かな情操を育むことを保育理念とする。」

- ・ 神を賛美し、つねに感謝する子ども
- ・ 自ら考え想像し、仲間と共に遊びや生活を作り出す子ども
- ・ 異年齢児と親しく関わり、育ち合う子ども
- ・ 豊かな自然と関わる創造的な子ども

2 本年度重点的に取り組む目標・計画

- (1) 戸山幼稚園の特徴である“自然環境”を活かし、子どもたちが自然物に興味を持ったり、調べたりする経験を増やす。
- (2) 季節の移り変わりを感じ、四季折々の自然体験を通して、食に興味を持ち喜んで味わう。
- (3) 様々な行事を通して、考えたり、試したりしながら主体的に過ごす充実感を味わう。
- (4) 戸山幼稚園の保育を一貫して守れるよう、研修時間を増やし保育者間の連携を強めていく。

3 評価項目の達成および取り組み状況

*評価 A=十分に成果があった B=成果があった C=成果なし

評価項目	取り組み内容	自己評価	評価
保育について (3)	・遊びの中で、子どもたちの主体性を育み、自己充実できる保育計画、対応を心掛ける。	・子どもたちの姿から必要な環境や援助について検討し、またそれらを共有できるようにiPadを用いて見える化している。 ・常に保育者間での会議や打ち合わせを心掛け、計画を見直す機会や互いのアドバイスを取り入れ合う場を大切にしてきた。 ・子どもたちの思い、挑戦したいことを汲み取り、叶えられる方法を職員で模索しながら子どもたちとの対話を心掛けた。	A
自然遊びについて (1)	・園周辺の散策 ・生き物の飼育 ・昆虫採集 ・自然観察会、やきいもパーティー、マラソン	・園と密接にある箱根山公園の環境を生かし、日頃から自然の中に身を置くことが楽しさに繋がるように散策の機会を定期的に取り入れている。 ・四季を通して出会う生き物が変化することを味わいながら、異年齢の刺激を受けあい様々な飼育の方法を調べたり学んだりした。 ・自然の中で過ごす面白さをプロに提案いただく機会と、子どもたちが自ら関わろうとする行事を、バランスを持って計画した。 ・自然環境と共存できる園環境のおかげで、知的好奇心や身体能力向上など、多面的に子どもの成長を促す場が守られた。	A
食育について (2)	・夏野菜について知り、自分の手で育て収穫し、実際に夏季保育で味わう。 ・秋の味覚を味わったり、調理する喜びを知ったりする。	・憧れの年長が取り組んでいた活動を思い起こし、自分たちでも挑戦しようと思欲的に取り組んだ。この実体験から嫌いだった野菜を克服しようとする姿が多く、自分たちでメニューを考える等、年長としての自覚と責任感が芽生えている様子が見られた。 ・秋の自然遊びからやきいもパーティーを叶えるために子どもたちの経験を形に変えていく場を設け、皆で充実感を味わった。 ・おつかい、買い物を通して、自分たちで作った喜びから苦手なメニューを克服する子や、その活動を前向きに捉える子が増えた。	A
研修について (4)	・園内研修の充実 ・園外研修の参加	・幼少年教育研究所の講習参加を継続し、保育理念と現在の子どもの姿を照らし合わせながら各々の保育観を育む機会となった。 ・人員不足の時期が長かったことで、昨年に比べ十分に園内研修の時間は取れなかったものの、職員間での連携を強めるようにコミュニケーションを多く取りながら補ってきた。	B

特別支援保育 について (4)	<ul style="list-style-type: none"> ・新宿区療育センターとの連携 ・民間療育との連携 ・園外研修への参加 ・保護者理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な家庭環境や成長発達がある中で、それぞれの個性をありのままに受け止めていけるよう保育者間での理解を深めてきた。 ・新宿区の療育施設や、その他民間機関との連携を増やすことで専門家の意見を取り入れて、より最善の対応をしていけるように学びを深めた。 ・集団生活を送る子どもたちに対し、子ども本人の躰みや保護者の不安感を整理し、園としての対応を常に共有するように配慮した。 	A
地域環境につ いて (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々との交流 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度よりも、地域の方々やお店などの交流の場を心掛けて増やした。特に地域の花屋、肉屋、うどん屋、スーパーにおつかいに行く機会を設けて交流を図った。これまでは園職員と地域の方との交流ばかりであったが、子どもたちのおつかいの場を通して、戸山幼稚園への理解を広げていただけた。 ・近隣住民の方々にシルバー人材派遣と称して園の活動のお手伝いをいただく機会ができた。それによって、子どもたちが“先生”以外の大人と関わる喜びや安心感を味わう場となった。 	A
保護者との連 携について (3・4)	<ul style="list-style-type: none"> ・父母の会運営 ・行事の開催 ・園からの発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度から連絡事項の配信アプリを導入し、アンケート機能を多用することで保護者からの意見を近い距離で受け止められるように心がけた。 ・園の在り方について父母の会と意見交換する場を増やし、これまで役員とのやりとりのみだった窓口を広げることにより、多様な意見を取り入れられるように心がけた。 ・職員の人員不足により、必要なタイミングで必要な情報を共有しきれていなかったり、保護者の中で不安感を持って過ごす期間があったことが課題にあげられる。 	B

4 総合的な評価結果

評価	理由
A	<p>園児減少の一途を辿る中で、今ある環境でより子どもたちの主体性を伸ばす方法を常に考えて取り組んできた。大きな行事のみならず、主体的に活動を展開させられるように計画を行ったり、子どもの姿を捉えたりして保育に臨むよう努めた。</p> <p>またそれらを保護者に共有する場として、アプリを導入したり、おたよりに写真や動画を多く載せるなど工夫したり、父母の会からの理解を持続的に受けられるように配慮してきた。今年度は園の人員不足が一番の課題であり、保護者のみならず園職員の不安感も高かった。そのような環境においても、それぞれが何より子どもたちのために、と戸山幼稚園での生活を大切に守ってきた一年であった。引き続き、保育理念を大切に守りながらも、時代に応じた園の在り方を考え続けるべきである。</p>